議 事 録

用 件	市長との懇談会（東濃厚生病院の存続を求める市民の会）
日 時	令和7年4月22日（火） 11時～12時20分
場 所	市役所 4階全員協議会室
参加者	東濃厚生病院の存続を求める市民の会 代表 稲葉 他7名 （犬塚、後藤、柳瀬、岩島、越、佐野、伊佐治）
市出席者	水野市長、小木曾健康福祉部長、和田健康づくり課長 進行：谷口 書記：兼松
要点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新病院への交通アクセスについてどのように考えているか。 2. 東濃厚生病院の後利用について、考え方と方針を説明いただきたい。 3. 新病院での透析の実施はどのようになるか。 4. その他
1. 新病院への交通アクセスについてどのように考えているか。	
市長	<p>新病院のアクセスについては、いろいろな説明会場で必ず質問をいただいている。瑞浪市、土岐市、病院を運営するJA厚生連も、大きな課題として受け止めている。アクセスについては、現東濃厚生病院から新病院までのシャトル便を運行する方向で、JA厚生連と協議を進めている。</p> <p>現東濃厚生病院までのアクセスは、引き続き、コミュニティバス、デマンドタクシーを利用していただきたい。シャトル便とコミュニティバスとがうまく乗り継ぎできるような運行時間をJA厚生連と協議をしていく。</p> <p>シャトル便については、JA厚生連の事業として実施してもらうよう依頼をしている。JA厚生連はその便数などについて、東濃厚生病院の利用者を対象にアンケート調査を実施し、ニーズを把握し検討すると聞いている。JA厚生連からの回答があるまでお待ちいただきたい。</p> <p>日吉、釜戸、陶方面で運行しているけんこう号は、新病院の開院後も継続して運行すると聞いている。けんこう号、コミュニティバス、デマンドタクシーを活用し、シャトル便と連携して新病院へのアクセスを確保することを想定している。</p>
2. （中日新聞に土地売却についての記事（堀尾会長発言）が掲載されているが）東濃厚生病院の後利用について、考え方と方針を説明いただきたい。	
市長	<p>新聞の記事については、不安を感じている市民は多くいる。堀尾会長からは、東濃厚生病院の跡地を（瑞浪市に迷惑がかからないよう）有効活用することも検討するという言葉があったが、その部分は掲載されなかった。</p> <p>土地・建物はJA厚生連の所有だが、市側から活用したい事業者を紹介すれば、条件のすり合わせを進めるとの話もいただいている。</p> <p>敷地南側にある健康管理センターについては、JA厚生連が内科系、外科系で2～3診察室の診療所（1次医療機関）を開設することを検討している。診療所は開設するが、新病院の医師確保が最優先であるため、診療科等の詳細はギリギリまで決まらなると聞いている。</p>

	<p>新病院への移転後に健康管理センターの改装工事を行い、1次医療機関としてスタートする。入院機能を持たないため、精密検査が必要な場合等は新病院へ紹介する流れと聞いている。</p> <p>J A厚生連は、病棟のある本館については、介護、医療、リハビリ、健康増進など福祉法人の誘致を進めたが、今現在、話がまとまっている事業者はない。今後は、有効活用していただける事業者であれば間口を広げて探すと聞いている。</p> <p>J A厚生連には、来年2月までにははっきりするよう伝えている。</p>
3. 新病院での透析の実施はどのようになるか。	
市長	<p>新病院では透析で30床確保している。しかし、現状透析の医師確保に苦慮している。引き続き名古屋大学、岐阜大学の医局をお願いしていく。J A厚生連にも両大学としっかり交渉するよう伝える。</p>
4. その他	
参加者	<p>後利用について、市民が参加できるような会合、打合わせ等はできないか。瑞浪市として税金を投入しているのであれば、市の意向を押すことができるのではないかな。もっと市民の声が直接聞けるような仕組みが必要ではないか。</p>
市長	<p>様々な説明会の度に市民からいろいろな意見を聞かせていただいた。後利用委員会を設置し、市民の意見を集約して伝え、J A厚生連と協議を重ねた。決して市民の意見を反映していない、市の意見だけといったことはないのご理解いただきたい。</p> <p>市として運営補助金を出しているが、最終的な判断はJ A厚生連が行う。</p>
参加者	<p>新病院のアクセスについて、東濃厚生病院から新病院へはシャトル便を出す、東濃厚生病院までは既存のコミュニティバスとデマンドタクシーを利用して移動するとの説明であったが、停留所が遠い、運行時間が合わない等で利用しづらいと思う。けんこう号についても週に1便程度では体調の急変に対応できない。J A厚生連で便数の増加が難しいのであれば、瑞浪市でも運行するなどを検討いただきたい。</p>
市長	<p>シャトル便、コミュニティバス、デマンドタクシーの乗り継ぎについてはJ A厚生連と協議し、スムーズになるよう進めるつもりでいる。先の説明のとおり、J A厚生連がアンケートにてニーズを把握し、便数を決めていくため、アンケートの結果を基にすり合わせを行う。</p> <p>けんこう号の便数の増加要望については市民の意見として伝えるが、J A厚生連が判断するものと考えている。</p>
参加者	<p>ケアマネージャーをしているが、体が不自由な方から新病院が遠くなることについて不安の声を聞く。脳梗塞の後遺症で足が不自由、歩行器を使っている一人暮らしの方のケースでは、バス停が遠く、デマンドタクシーも今は以前と違い、バス停までとなっており、歩行器を使い、転倒に気を付けてバス停まで移動するのは時間がかかり、危険でもあるため、利用が大変である。一部の運転手は自宅付近での乗降をしてくれるようだが、全員にそういったサービスができる支援があると、瑞浪市に住んでいてよかったと</p>

<p>市長</p>	<p>なるのではないか。タクシー代の助成をしている自治体もある。いろいろな手段を考え、きめ細かい移動手段の援助と移動しなくても診療が受けられるよう健康管理センターに診療機能だけでなく、検査機能、無くなってしまう泌尿器科も残すことをお願いしたい。</p> <p>デマンドタクシーのサービスについては平和タクシーに委託している。サービスにばらつきがあってはいけないので、意見は伝える。</p> <p>また、話を聞き、重度の方への対応を何か検討する。</p> <p>検査機器を残すことについては極力多く残すよう要望しているが、診療所としてどこまで機能を残すかJA厚生連に確認する。</p> <p>新病院までは20分ほどかかるが、東濃厚生病院へ搬送されても適切な医療が提供できず、次の病院（県立多治見病院、徳洲会等）へ再搬送されるケースがある。これでは搬送に時間を取られ医療を提供するまでの時間が長くなってしまふ。そういったことが極力起こらないよう、新病院は専門医を配置し、高度医療が提供できる病院を目指している。距離が遠くなるという話はあるが、別の病院へ再搬送することなく高度医療が提供できることで、適切な医療を提供できるまでの時間は短くなると考えている。</p>
<p>参加者</p>	<p>先ほど、透析の医師確保に苦慮しているという話があった。新病院の医師確保ができなければ、東濃厚生病院後利用の診療所も難しくなる。医師確保は本当に可能か。</p>
<p>市長</p>	<p>建設については建設費高騰の課題はあるが、順調に進んでいる。もう一つの課題は医師確保であると認識している。</p> <p>新病院は当初の26の診療科を計画していたが、名古屋大学、岐阜大学から別の診療科医派遣の提案があり、36の診療科で開院する予定でいる。若い医師が安心して勤務できる医療設備がないと、医師確保が難しい面もある。医師確保についてはJA厚生連だけでなく、瑞浪市、土岐市も一緒になり、働きかけている。</p> <p>また、土岐市も瑞浪市も産婦人科が課題であった。施設としては年間280名程度の規模となる。開院当初は最大稼働ではないかもしれないが、開設の目処は立っている。</p> <p>他新病院の動きを見ると、2年～4年経つと医師が集まりやすい傾向にある。医師確保は簡単ではないが、数年かけて確保していく。</p>
<p>参加者</p>	<p>話の中であった36の診療科について明らかにしていただきたい。（⇒診療科は公表しているが、後ほどお知らせする。）</p> <p>また、全国的に医師不足の問題を抱えているが、市民の命を守ることができるよう気を引き締めて取り組んでいただきたい。</p>

《新病院診療科目》 36科目

・内科	・形成外科
・消化器内科	・脳神経外科
・呼吸器内科	・眼科
・循環器内科	・耳鼻咽喉科
・腎臓内科	・産婦人科
・糖尿病・内分泌内科	・泌尿器科
・神経内科	・皮膚科
・血液内科	・リウマチ科
・精神科	・アレルギー科
・小児科	・麻酔科
・外科	・リハビリテーション科
・消化器外科	・放射線科
・呼吸器外科	・放射線診断科
・乳腺・内分泌外科	・放射線治療科
・血管外科	・病理診断科
・心臓血管外科	・救急科
・大腸・肛門外科	・歯科口腔外科
・整形外科	・緩和ケア内科